

社会主義は理想なのか
～「共産党宣言」に学ぶ

第2回 関東ブロック

第1章 ブルジョアとプロレタリア 第1回

階級闘争とは何か

今月から『宣言』の中身に入ります。

第1章 ブルジョアとプロレタリアの章は3回に分けて学びます。その本文に入るまえに有名な序詞があります。そこにこの『宣言』が世に公表される立ち位置が語られています。

「ヨーロッパに幽霊が出る。共産主義という幽霊である。」の序詞で始まる『宣言』は、1848年当時の情勢を良く現しています。ヨーロッパに革命の嵐が巻き起こり、その中でその革命の一翼を担う共産主義が一つの力と認められ恐れられている。そこで共産主義者がその考え方、その目的、その

傾向を全世界に公表し、この幽霊物語

に党自身の宣言を対立させるのにちょうどよい時期であると記しています。

マルクスとその盟友エンゲルスは、

階級闘争に身を置く中で、彼らの科学的歴史観である唯物史観に基づき、人間社会のたどり着いたブルジョア社会の根本矛盾を明らかにしました。それにとどまらず次の社会は社会主義社会であることを解き明かし、プロレタリアの歴史的使命を簡略に示す必要性に迫られていました。

今回は第1章 ブルジョアとプロレタリアの一回目です。

階級と階級闘争

司会II今回は、第1章冒頭の「今日までのあらゆる社会の歴史は、階級闘争の歴史である」について議論をしたいと思えます。この命題から言えば、今、資本主義の時代は、支配する資本家階級と支配される労働者階級の階級闘争が闘われているということになります。が、その実感はあるでしょうか。

KAII私は、本当に今、階級闘争が闘われているんだ、というようにはとても思えません。貧乏の原因は、自分の努力不足じゃないか。もつと学歴、能力があつて努力すれば、私も偉くなれ

◆みんなの学習講座



現代の職場では労働者階級という意識はもちにくい

るんじゃないか、と思っている人が圧倒的じゃないか、と考えています。KUⅡ階級という言葉はふつう使われていない。職場では従業員、会社員、サラリーマン、ホワイトカラー、ブルーカラーとかいう表現がふつうだから、労働者階級の一員なんだと言われてもピンとこない。自分は資本家ではない、しかし労働者階級なんだと自覚が持て

るのかというとそうでもない。

MⅡ闘いがなければ階級という考えにはなつて行かないのではないか。私も学校卒業して職場に入った時は、努力すればそれなりに偉くなって生活をしていけるだろう、だから頑張ろう、と一生懸命働いた。でもいくら頑張っても安い賃金でこき使われる。実際に労働強化で身体はきつい賃金は上がらない。そのうち経営が赤字だといって合理化で首を切られる。そういう中で会社、資本が悪いと気づき、労働組合を結成して闘う、そこに「労働者が会社の主人公」だと教える『まなぶ』があったわけだよ。そこで職場反合理化闘争を闘う意義も分かり、この資本主義社会では搾取する階級Ⅱ資本家階級とは相いれない、労働者は闘う以外ないと生身の身体で分かった。だから階級というのは闘いの中で意識づけされるのだと思う。闘いがなければ、敵味方という支配階級と被支配階級の争

いという認識には到達しないし、分からないのではないか。

資本家階級全体、

政治全体と闘う

KAⅡでも私は、階級闘争なんて日頃意識したことはない。事実、労働大学記念出版の『社会を変える、自分を変える』（坂本哲郎著）でも、日本の労働者階級は「1970年代前半までは歴史を動かす巨大な力を発揮していた」、だが「・・・今日の日本には、階級としての労働者集団は崩壊している。その事実から目をそらすことなく、そこからすべてをはじめることが大切である」とも言っている。「階級としての労働者集団が崩壊している」から階級闘争がない。私は70年代の高揚期を知らない。だから感じる事が出来ないのではないか。

階級闘争が崩壊しているんだから始めからやり直すしかないんだと思う。



スト権スト（1975年）

しかし、どこから始めれば良いのか。YII私が市役所に入った頃、最初はパートタイマーで、何カ月かしてから日給・月給になって本採用の試験があった。正規職員になったんです。ちょうどそのころ埼玉で国体があったんだ。正規の職員はブレザーを与えられ、国体の選手を送り迎える仕事に就くわ

け。俺らはパートだったからブレザーもくれないし表の仕事には出されなかった。その時、無性に差別されて嫌な思いをしたことがある。服装で格差をつける。こんなつまらないところで差別をする。

上下関係をはっきりさせるといふか課長、係長の職制と平の職員とは違うし、平の職員とパートも違うという関係を意識させる。職場の上下関係で支配を確立していく、「なぜなんだ、おかしいぞ」と感じた。その後、労働運動に加わり、学習会で「階級」とか「階級闘争」というのを学んで分かってきた。だから、日頃、職場でおかしいと思うことを「なぜか、どうしてか」と考えて、どう差別・分断してきているのか、敵の狙いをはっきりさせて、どうすれば仲間と団結して抵抗できるのか学習していくしかないと思いました。そこが出発点なのではないかと感じています。

KSIIしかし、本来の意味の階級闘争とは何かだ。レーニンがロシア社会民主主義者の『われわれの当面の任務』で明確に込えている。「階級闘争とは何か。個々の工場、個々の職種労働者が自分の雇主たちと闘争をはじめのなら、それは階級闘争であろうか。いやそれは階級闘争の弱い萌芽にすぎない。全国にわたる全労働者階級のすべての先進的な代表者が、単一の労働者階級であることを自覚し、個々の雇主に對してでなく、資本家階級に對して、またこの階級を支持する政府に對して、闘争を開始するときにはじめて、労働者の闘争は階級闘争になる。個々の労働者が全労働者階級の一員であることを自覚するとき、・・・日常の小さな闘争を、ブルジョアジー全体と政治全体とに對する闘争と考えるようになって、そのときはじめて彼の闘争は階級闘争となる」と述べています。このことを踏まえると60年三池・安保

◆みんなの学習講座

闘争、70年代前半の国民春闘には階級闘争を思わせる闘いがあった。

階級とは何か

司会Ⅱ職場で闘って学習の中で階級闘争のとらえかたも分かったということでした。では最初に戻って、なぜ階級が生まれ、今日まで階級闘争が続いているのか。そこを明らかにしてください。

K AⅡ階級って何か。一個人ではないし、人と人との集団で、支配する側と支配される側の両極の集団だね。階級っていうのは、人の社会的生産における役割、または生産手段に対する地位で基本的に規定される人間の集団のことでしょう。生産手段をだれがもっているかで、支配階級と被支配階級とが区別されるということじゃないのかな。

YⅡそれが正しい。では階級闘争はなぜ起こるのか。この歴史をちゃんと掴

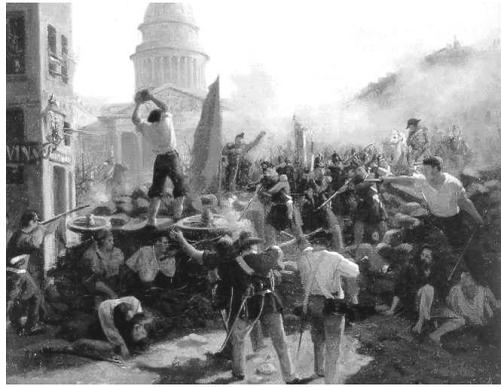
まねばいけない。原始共产制社会から奴隷制という最初の階級社会が生まれ、その後奴隷制が崩壊し、封建制になって封建制の没落から資本主義が生まれたと言っている。しかし、自然に前社会が崩壊して次の階級社会に発展したのではない。

人類最初の社会は原始共产制社会です。この社会はみんなまで共同して、狩猟と採取で生活していた。自給自足で余るものはなかった。しかし、定住し農業や牧畜を営めるようになって生産力が高まると余剰生産物が作られるようになってきた。そこから階級分化が始まる。余剰生産物をめぐって部族内部の争いが起こり独り占めするもの、力が強いものが出てくる、相続権が女系から男系の家父長的氏族に渡り、他氏族に戦争を仕掛けて、負けた他氏族を連れてきて奴隷として使役する支配階級にのし上がる。この奴隷が生産の担い手になり生産力を高める、この奴

隷制が最初の階級社会の誕生だね。そこから封建制、資本主義と発展してきた。この発展は、生産力が向上すると、今までの生産関係（生産をとり結ぶ人と人との関係）では生産力の発展を阻害する。例えていえば、子どもが成長すると身体が大きくなり、古い服から新しい服に着替えなければならぬのと同じことだ。その生産関係の矛盾の爆発から新しい生産関係に変わっていくわけだね。封建領主と農奴、ブルジョワとプロレタリという支配階級と被支配階級に分化してきたんだね。

日本には奴隷制度があったのか

UⅡ日本には奴隷制度があったのか。労働大学記念出版『日本はどこへゆくのか』（坂牛哲郎著）を読むと、「……長期にわたる『原始共产主義社会』をうちこわしたのは、紀元前5世紀ごろの稲作と鉄器の到来で、（略）……農業は木製の鋤、石製の



1848年、フランス2月革命

鎌や包丁から、鉄製農具へと変わり、収穫量は飛躍的に拡大しました。農耕の発達は、集落内の食料の拡大を生み出し、階級が発生します。

約10万年続いた『原始共産主義社会』はここで終わり、2世紀後半、邪馬台国が生まれ、引き続き各地に小国が生まれ、日本全土を統一した古代国家が生まれたのは、西暦645年『大

化の改新』です。」と書かれている。

そうすると邪馬台国から古代国家に進む中で、日本にも奴隷制社会が生まれたとみていいのかわ。

KUⅡ明確な区分は分らないが、古代社会は奴隷制社会のことだから日本にも奴隷制社会はあったということだ。問題は、生産力の発展には、前述のUさんが言ったように生産手段の改良が大きな要因ということだね。

当時は農産物が主なわけで農産物を作る人と作らせる人との関係が出てくる。そこで生産力が高まるといくと、

奴隷制を打ちこわし古代社会から封建制社会になって行くでしょう。支配するのは貴族から封建領主の武士階級に変わる。1603年の徳川政権から封建制が確立したんだ。

封建制から資本主義へ

司会Ⅱ原動力は生産力の発展ですね。経済が土台で、その上に政治、法律、

国家がそびえたつ。しかし、いつまでも古い階級社会は続かない。奴隷制から封建制、封建制が倒されて今度は資本主義が出てくるんだよね。どうしてそうなるのかです。「農奴から、城外市民が生まれ、最初のブルジョア階級の要素が発展した。」とあるけれどもどういうことかね。

KUⅡ封建制では、奴隷ではない半分奴隷の農奴が出来て、その中から農民をやめて城外市民となり手工業者や商人が出てきたんだ。それが最初の要素だった。

フランスでは、この城外市民から最初のブルジョアが出てくる。最初、商品をつくるのは親方と数人の徒弟で生産するギルド制度のもとで発展する、しかし、これでは生産性は上がらない。そこで個々の仕事場に分業を持ち込み、生産性を上げる担い手が登場した。ギルドの親方を押しつけて工業的中産階級が出現する、これがブルジョアにの

◆みんなの学習講座

し上がるんだ。どうしてか。分業をマニユファクチャー（工場制手工業）に発展させて、商売をするのに狭い範囲の市場ではもの足りなくなってきた。しかしイギリスは違っていた。商人ではない独立自営農民というのがいて羊の毛織物を3〜4人の家内制手工業でやってた。この毛織物は質が良いから売れたんだ。

そこでもっと生産力を上げたい欲求にかられる。そこで労働者を雇い30人以上の規模のマニユファクチャーを作る。ますます生産力は高まる、域外に売りたい、そうなると封建制は邪魔になってくる。生産、商品売買、交換取引というものを自由にしたい欲望にかられ、封建制をぶち壊す力になったんだ。

早くも1649年には、イギリスでは絶対王政を倒し、ピューリタン革命によって資本主義への道を切り開いたんだ。そこに「アメリカの発見、アフ

リカ航路が、アメリカ、シナと東インドへの植民、貿易、商品の増大というブルジョア階級の新たな市場が現れ、これまで知られなかった飛躍をもたらした。封建制の崩壊と資本主義生産の革命的要素に急激な発展をもたらした」（本文）とあるね。そして封建制の中で、マニユファクチャーから、今度は機械制大工場の発展に導くんだ。

蒸気と機械装置とが

工業生産を革命

MIIそこはどっしてそうなるかだ。「蒸気と機械装置とが工業生産を革命した。大工業は世界市場を作り上げた。」（本文）と言っている。やっぱり生産手段の絶え間ない発明と改良がそうさせるんだ。

今もグローバルイズムで多国籍資本がIT産業を駆使し国境を越えてわがもの顔で世界の搾取と収奪を欲しがままにしている。マルクスは1848年

に、早くも「全工業軍の司令官があらわれた。すなわち近代ブルジョアである。」と言いつつ、それだけでなく「この近代ブルジョアは独り占めの政治支配をも闘いとつた。」（本文）と言いつついる。

フランスの封建時代には、第3身分に甘んじていたブルジョアは、「自由、平等、友愛」のスローガンのもと、農民、小工業者、労働者を味方につけて、絶対王政を打倒し、ブルジョア代議制を闘いとつたんだね。このブルジョアとは産業ブルジョアのことかな。

司会IIそうだと思いますが、今回はここまでとします。唯物史観にのっとり人間社会の歴史的發展を解明していただくました。

今回は、「ブルジョア階級は、歴史において、きわめて革命的役割を演じた」ことについて学習したいと思えます。